

農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

 (2) 酒造会社と合同で有機栽培「大自然」田植え
JA会津よつば (福島県)

新規	継続
	○
	(平成 28 年度)

1 動機(経緯)	JA会津よつばでは、新入職員が実際に土に触れることを通じて、農業への理解の深耕を目的に、毎春末廣酒造との合同で、会津若松市河東町で田植え作業を行っています。稲はアイガモ農法による有機栽培で育て、末廣酒造の純米酒「大自然」の原料として使用しています。
2 概要	末廣酒造社員とJA新入職員約 60 名が参加し、酒造好適米「亀ノ尾」の作付を行いました。 「亀ノ尾」については、大正時代には飯米・酒米・寿司米のいずれの用途でも高い評価を受けていましたが、害虫に弱い一方で、化学肥料を使用すると極端に米がもろくなる等の理由から、次第にその子孫品種などへのシフトが進んでいました。 末廣酒造では、「亀ノ尾」の口に含むと爽やかな清涼感が一気に広がり、上品な酸味とかすかな苦みが味わいの幅を更に広げてくれる優れた特徴を有することを踏まえ、復活させました。
3 成果(効果)	当JAでは、毎春実施されるこの田植え経験を通じ、新入職員がJA職員としての役割や心構えを意識することに繋がっています。 参加した新入職員からは、「手作業で田植えたのは初めてです。とても大変なことであると改めて認識することができた。」「職員として今日の経験を活かしたいです。」などの抱負が示されました。
4 今後の予定	新入職員を対象とした末廣酒造との合同田植え作業については、実地経験による教育的効果が高いことから、今後も継続する予定です。

【田植えの様子】

